

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
402	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b> Alcohol and cannabis use as risk factors for injury—a case-crossover analysis in a Swiss hospital emergency department. アルコールと大麻使用が外傷への危険因子かどうかの検討 スイス病院の救急部における事例とクロスオーバー分析より	
<b>執筆者</b> Gmel G, Kuendig H, Rehm J, Schreyer N, Daepfen JB.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> BMC Public Health. 2009 Jan 29;9:40.	
<b>キーワード</b> 外傷、飲酒、大麻使用	
<b>要 旨</b>  <b>目的：</b> アルコール摂取が外傷に対して危険因子となる事については充分かつ一貫した根拠がある、しかし大麻の使用については矛盾する部分もある。大麻使用による保護的作用も疫学研究にて明らかになった間、大麻使用の有害とされる容量反応効果は、実験的研究において精神運動やその他の関連する技術で発見された。	
<b>方法：</b> ケースクロスオーバー研究は、Lausanne (ローザンヌ) 大学病院に救急治療部で一般的な外傷を受けた事による、各々異なる分類の治療を受けていた患者 (486,332名の男性と 154名の女性) を対象とし実施された。	
<b>結果：</b> 外傷の6時間前のアルコール摂取は、摂取がない場合と比較し、相対リスクを3 (C.I.: 1.78, 5.04) 上昇させ、また容量反応も同様であった。大麻使用は負の相関で、(RR: 0.33; C.I.: 0.12, 0.92) 容量反応も同様であった。しかし、大麻使用のサンプルサイズは小さい。アルコールと大麻の併用に関してはリスクの上昇に有意な結果は得られなかった。	
<b>結論：</b> 今回の調査結果より最も驚いた結果は大麻使用と外傷に関して負の相関があった事である。安全な環境での使用か、それとも大麻使用者の代償的な行動があるのかなど可能な説明と根底にあるメカニズムを話し合ったのである。	